

映画「花籠」の源となる脚本の初稿は、いまを去る40数年の昔、僕・大林宣彦の劇場用映画第一作『HOUSE』(ハウス) (77) を撮るよりも前に、第一作を『花かたみ』として製作する予定で書き上げておいたものである。三島由紀夫がこの一冊を読んで小説家を志したという、種一雄最初の短篇集に収められた鮮烈な純文学『花籠』が原作である。文豪依藤春夫による一頭の蝶の絵の装幀に、

僕友・太宰治が蒂文を寄せた箱入り愛蔵本を手に、これを映画化するのは僕の終生の夢であった。種一雄へ行つてご覧なさい」と微笑みながら一言、種さんはその頃既に重い病に臥しておられたのでありました。

それから日が経ち、種一雄さんとの計画が御子息の種太郎君から告げられた。僕の青春のひとつがそこで終わり、映画『花かたみ』の脚本は書棚の奥深くに仕舞われて、永い眠りの時の中に入つて

了つた。それから更に歳月が流れ、僕は独り、遠い青春の記憶を弄つていた。映画が誕生するにも、「句」があります。40年前には見えなかつたものが、いままさと見えてくる、という

ことも。昭和11年(1936年)文芸誌に『花籠』が発表されたその翌年、延文短篇集『花籠』の出版記念予告日に種一雄は召喚令状を受け取り、戦地へ赴いている。そして多くの尊い命が、戦場の霧と消えた。一見、放蕩無賴にも見ゆる本作の若き登場人物たちの精神や行動も、まことに切実なる生きる意志——「我が命は、魂は、我が信じるままに自由であらせよ」と願う、その純血の現れであったか、と。僕はこの物語を、いま新たに昭和16年(1941年)、あの太平洋戦争勃発の年に置き換えて語つてみようと思う。それはいまを生きる僕らに、より切実な、戦争の記憶であるから、「これば、いま必要な映画ですね」。唐津の里の里人のこの一言に励まされながら……。

二〇一七  
大林宣彦  
監督作品

花  
HANA  
GATAMI

籠  
KABUTO

窪塚俊介 満島真之介 長塚圭史 桑田真由

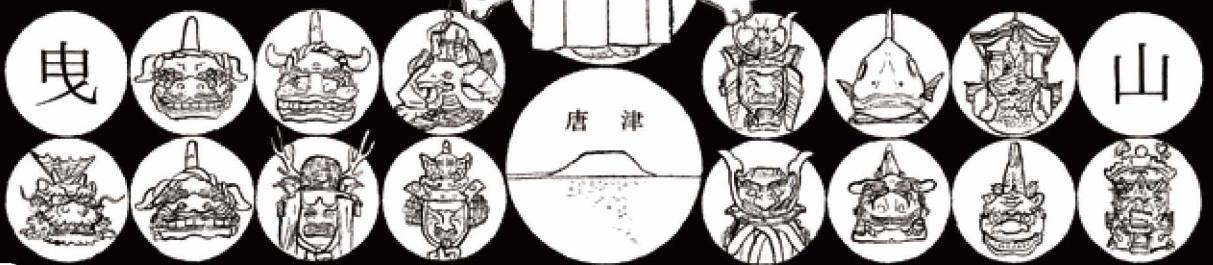
矢作穂香 山崎絵美 門脇麦 常盤貴子

(ゲストスター) 田村隆治 武田鉄矢 入江若葉 南原清隆

小野ゆう子 岡本太陽 根岸季衣 池知慎之介 鶴山田隆人 白石加代子

大川竜之助 片岡鰐太郎 高嶋政宏 原誠次郎 品川徹 伊藤孝雄

製作: 近幸徳(清洋映画製作委員会)/大林恭子(PSC) 助力: 稲太郎  
原作: 稲一雄『花籠』(講談社・文芸文庫) 脚本: 大林宣彦/桂千鶴 音楽: 山下康介  
撮影監督: 三本木久城 美術監督: 竹内公一 黒明: 西波燈光 録音: 内田誠  
編集: 大林宣彦/三本木久城 整音: 山本進美 監督補佐: 三本木勤  
エグゼクティブプロデューサー: 大林恭子 プロデューサー: 山崎鋼道



唐津

PG12  
映画

◎唐津映画製作委員会／PSC 2017 配給・宣伝: 新日本映画社

助成: 文化庁芸術振興費補助金 佐賀県 唐津市

映倫  
KINR  
2017.11.1-A

少年は魂に火をつけ、少女は血に溺れる。

「映画化するのは終生の夢であった」——大林宣彦



◎ 世界的カルト映画にして大林宣彦監督のデビュー作『HOUSE／ハウス』(77)より以前に書き上げられていた解説 幻の脚本が40年の時を経て奇蹟の映画化。自分の命さえ自由にならない太平洋戦争勃発前夜を生きる若者たちを主軸に、心が火傷するような凄まじき青春群像劇を、圧倒的な映像力で描く。原作は三島由紀夫がこの一冊を読み小説家を志したという檀一雄の純文学「花筐」。尾道三部作をはじめ数多くの“古里映画”を撮り続けてきた大林宣彦が選んだ佐賀県唐津市を舞台に、唐津の魂「唐津くんち」が映画史上初の全面協力。窪塚俊介主演、満島真之介、長塚圭史、常盤貴子ほか。『この空の花』『野のななのかな』に続く本作は、余命宣告を受けながら完成させた大林宣彦的“戦争三部作”的締めを飾る魂の集大成である。

◎ 1941年の春。アムステルダムに住む両親の元を離れ、佐賀県唐津に暮らす叔母（常盤貴子）の元に身を寄せることになった17歳の柳山俊彦（窪塚俊介）の新学期は、アボロ神のように雄々しい鵜飼（満島真之介）、虚無僧のような吉良（長塚圭史）、お調子者の阿蘇（柄本時生）ら学友を得て「勇気を試す冒険」に興じる日々。肺病を患う従妹の美那（矢作穂香）に恋心を抱きながらも、女友達のあきね（山崎絵菜）や千歳（門脇麦）と“不良”なる青春を謳歌している。しかし、我が「生」を自分の意志で生きようとする彼らの純粋で自由な荒ぶる日常のときは儂く、いつしか戦争の渦に飲み込まれてゆく。「殺されないぞ、戦争なんかに！」——俊彦はひとり、仲間たちの間を浮き草のように漂いながら、自らの魂に火をつけようとするが……。



窪塚俊介／満島真之介 長塚圭史 柄本時生 矢作穂香 山崎絵菜 門脇麦／常盤貴子

監督：大林宣彦 製作：辻幸徳（唐津映画製作委員会）／大林恭子（PSC） 協力：檀太郎 原作：檀一雄「花筐」（講談社・文芸文庫） 脚本：大林宣彦／桂千穂 音楽：山下康介 撮影監督：三本木久城  
2017年／カラー／DCP／アメリカンヴィスター／169分 配給・宣伝：新日本映画社 ©唐津映画製作委員会／PSC 2017 [facebook.com/hanagatami.movie](https://facebook.com/hanagatami.movie) [@hanagatamimovie](https://twitter.com/hanagatamimovie)  
公式HP ▶▶ hanagatami-movie.jp

唐津市



映画の舞台となったのは、佐賀県北部に位置する「唐津」。  
小説家・檀一雄、大林宣彦監督が魅せられたこのまちを、あなたも少し覗いてみませんか。

様々な表情を見せる玄界灘の海、500万本の黒松からなる「虹ノ松原」、2016年ユネスコにも登録された秋の例大祭「唐津くんち」、美しい田園風景、炭鉱町、城下町の風情、唐津焼と茶文化、伝統料理…。  
映画を彩る景色や文化を感じてください！

唐津市観光協会公式HP ▶▶ karatsu-kankou.jp